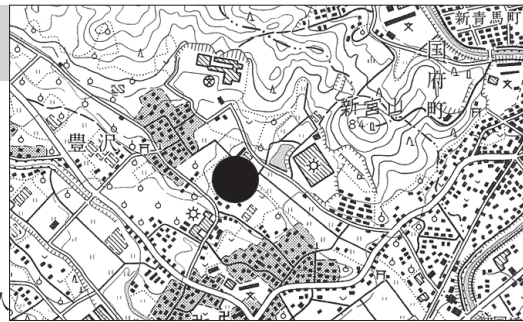


いしどうの
石堂野B遺跡

所在地 宝飯郡御津町広石地内
 調査理由 県道大塚・国府線建設工事
 調査期間 平成12年5月～9月
 調査積 6,400 m²
 担当者 川井啓介・松田 訓・竹内 睦・鈴木 裕・皆見秀久



調査地点 (1/2.5万「小坂井」)

調査の経過 調査は県道大塚・国府線の建設工事予定地内における事前調査で、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成11年5月8日から9月29日にかけて実施した。調査面積は、6,400 m²である。

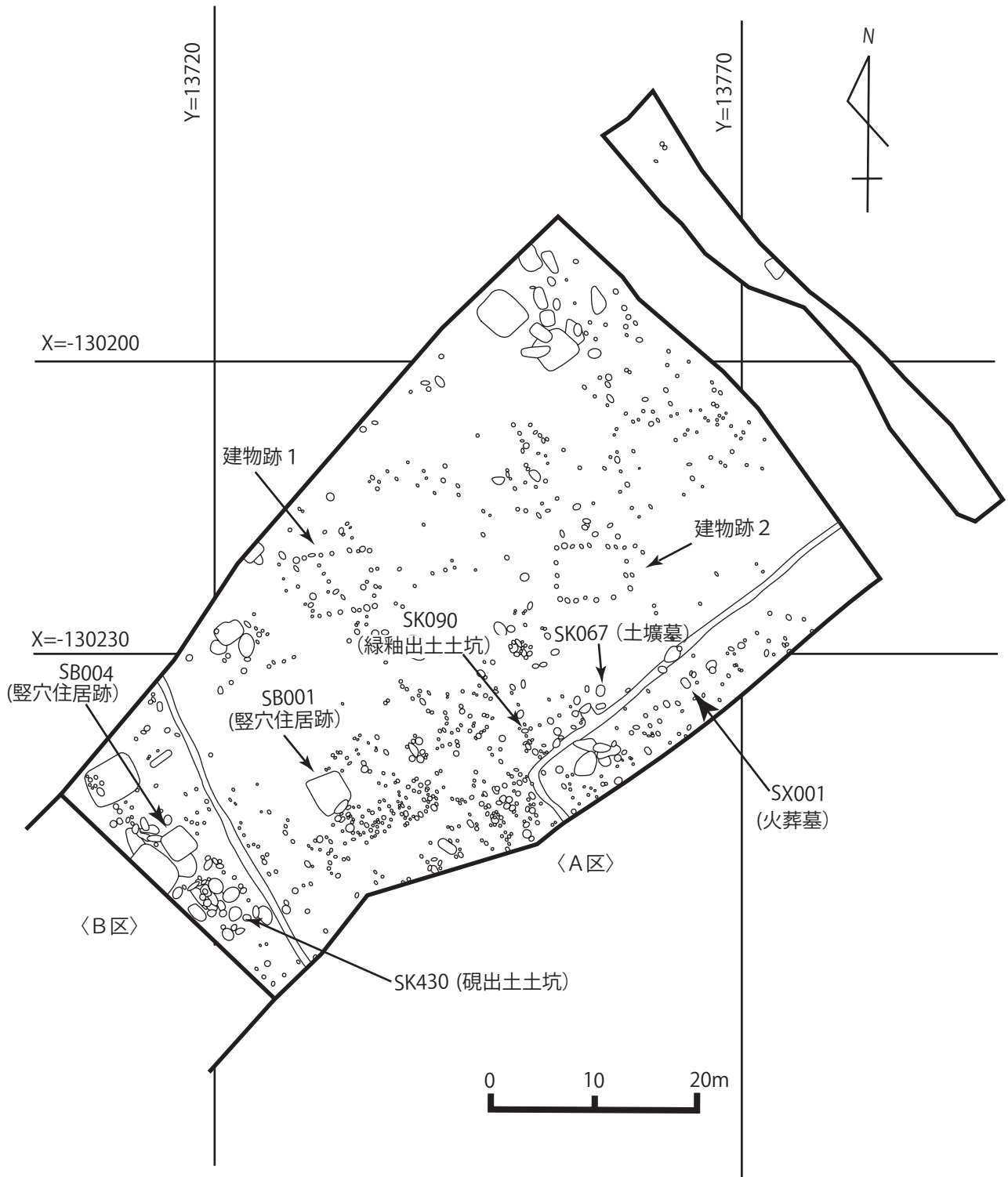
立地と環境 石堂野B遺跡は、J R東海道線愛知御津駅より北西約2 kmの、宝飯郡御津町大字広石に位置する。調査地は、北西から南東に向かってゆるやかに下る舌状の高まりと、小河川によって開削された浅い谷によって形成されている。標高は、29～31 mを測る。

調査の概要 今回の調査地点は、道路建設予定地内のため細長く、北西側から南西に向けて3分割し、A・B・C区の順に調査区を設定した。各調査区では大部分で、耕作土の真下から台地の基盤層である赤褐色または黄褐色粘質土が見られた。中世より以前に堆積したと思われる土層は、一部で確認できたのみであった。検出できた遺構は、円形小穴 301、土坑 896、住居跡 6、溝 22、火葬墓 1、土壇墓 1、方形周溝墓 1、不定型な掘り込み 42 などであった。この中で多く見られたものは、直径 25 cm 弱の円形小穴である。小穴の列が、方位を合わせたように長方形に並ぶ建物跡も 2ヶ所確認できた。これとは別に、欠山式土器を含む、竪穴式住居と思われる遺構が複数確認できたが、灰釉陶器が出土したものもあり、継続的ではないものの、複合した時代で居住地として利用されたことがうかがえた。出土遺物は古式土師器を主体とし、少ないながら須恵器、灰釉陶器、山茶碗なども見られた。

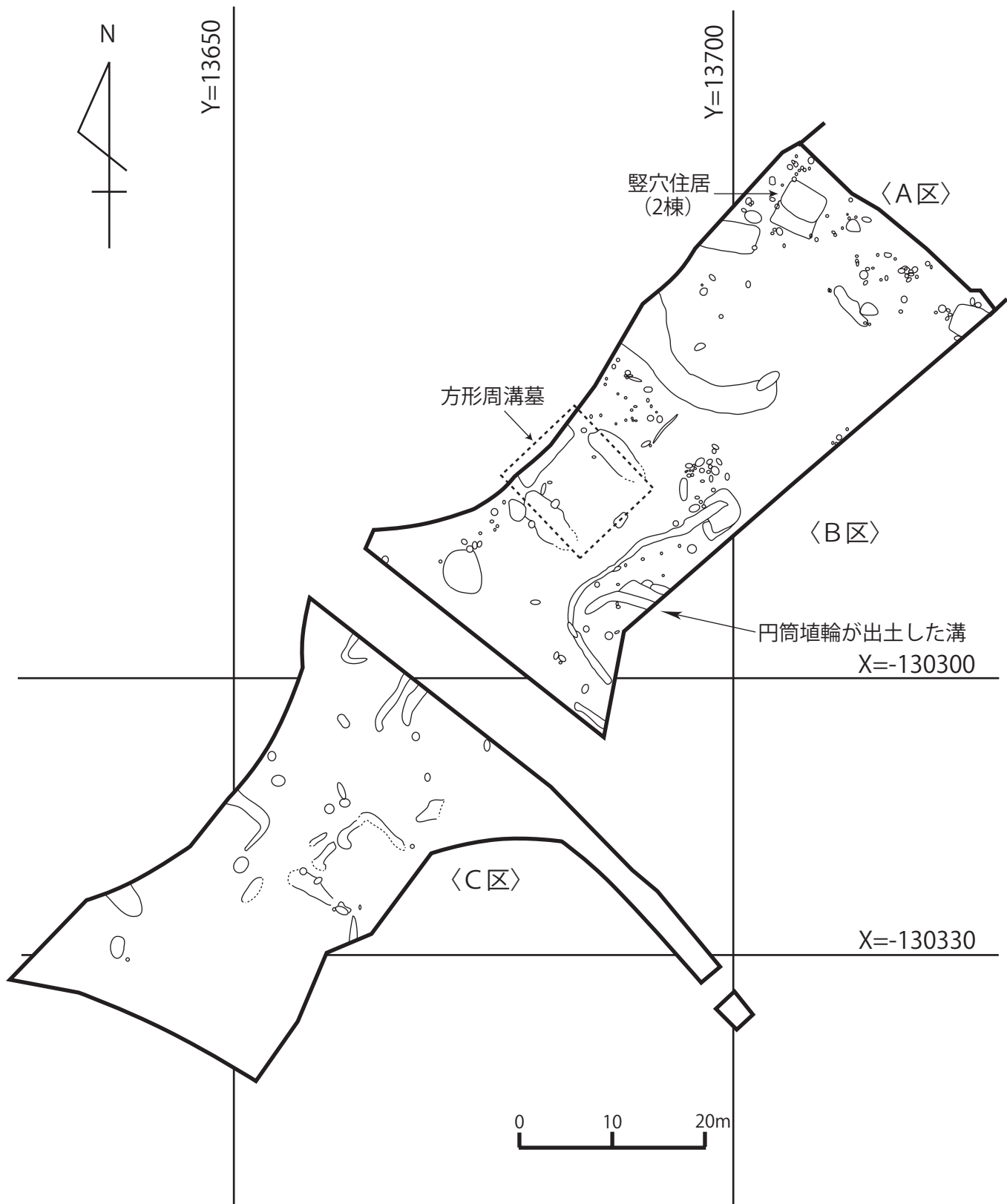
(松田 訓・竹内 睦・鈴木 裕・皆見秀久)



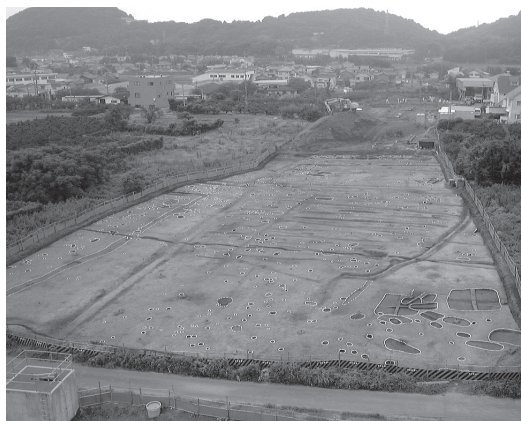
第1図 調査区位置図



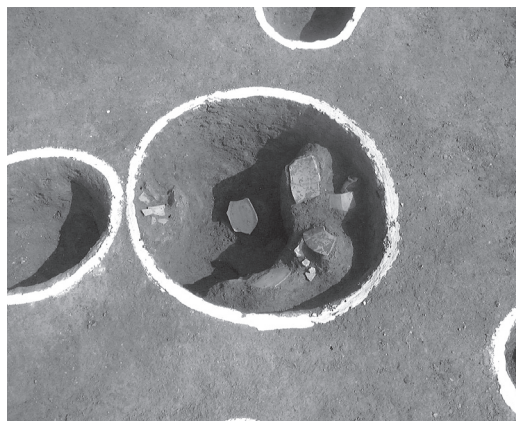
第2図 A区遺構図 (1:800)



第3図 B・C区遺構図 (1:800)



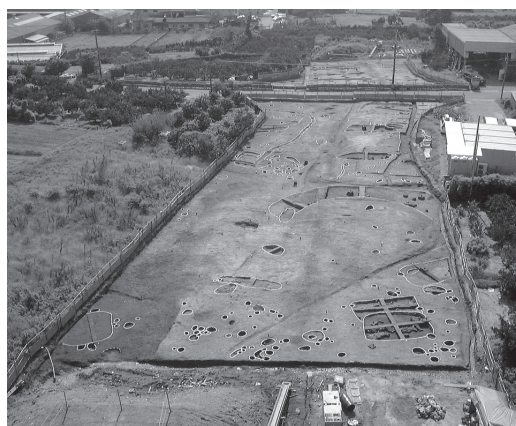
A区 全景（北東から）



A区 SK 090



A区 SB 001



B区 全景（北東から）



A区 SX 001



B区 円筒埴輪出土状況



A区 建物跡2



B区 方形周溝墓（南東から）